

サポートルーム 夏の研修

～ サポートルームでは、夏休みに研修を行いました ～

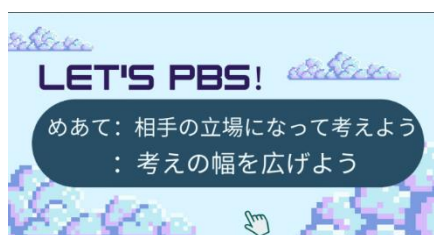
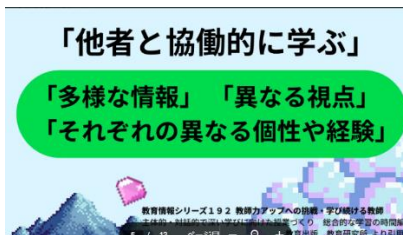
1、 PBS「ポジティブ行動支援」

夏の研修では、サポートルーム教員の研修「行動問題の理解と解決のためのアイデア創造ワークショップ」を用いて、相原小の教員に向けて校内研修をさせていただきました。

～PBS とは…ポジティブ行動支援（Positive Behavioral Support）～

- ①適切な行動をしている時間を増やす。
- ②ポジティブな評価を受ける機会を増やす。
- ③変えたい行動の機能を予測し、その機能を受け入れ、満たす支援をする。

PBS について説明、紹介させてもらった後、実際に PBS を考えるゲームに取り組んでももらいました。



(一部抜粋)

2、行動支援錯誤ゲーム

望ましくない行動を減らすための支援案を試行錯誤しながら検討するカードゲームをしました。ポジティブ行動支援を行うためのケース会議を体験的に理解することが目的です。

「行動カード」「機能カード」「アイデアカード」「お楽しみカード」を使って3～4人1グループで行いました。

(1) 手順

- ① 子供役と支援役にわかれる。
- ② 子供役は機能カードをもとに、行動カードに書かれた行動をする。
- ③ 支援役はお楽しみカード（子供が好きなもの）とアイテムカードを使って支援をする。


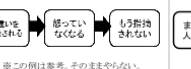


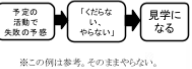




(2) カードの内容一覧 (一部抜粋)





【行動カード】

 泣く 大きな声を出し、涙を流しながら泣いている	 叫ぶ 両手を下に振り下ろしながら周りに聞こえる声で叫ぶ	 誰にでも抱き着く 職員に対して抱きついたり、二人の腕を組んだりする	 手や物をなめる 近くのものや自分の手を手当たり次第なめている	 噛みつく 腕をつかみ、思いっきり噛む	 人を蹴る お友達の後ろに入り、お尻めがけて足をあげて蹴る	 唾をとばす お友達や職員めがけて、自分のつばをとばす	 頭をうちつける 壁や床に自分を頭を何回もうちつける
 お友達を叫く 右手の手のひらで、お友達の顔を叩く	 物を投げる 持っていたおもちゃを投げる	 爪かみ 親指の爪を噛んでいる	 怒る ゲームに負けると歯を食いしばりながら怒りを示し、地団駄を踏む	 ひっかく お友達や職員に対して、爪を立て腕や顔をひっかく	 走り回る 狭い部屋で周りに人いりながらぐるぐる走り回る。注意しても再度走る	 口に物を入れる 近くにあるものを手あたり次第口の中に入れる	 つねる お友達のほっぺやうでを親指と人差し指でつねる

【機能カード】(最後2枚は行動カード)

感覚刺激・自己刺激 例  ※この例は参考。そのままだらない。	嫌悪状況からの逃避 例  ※この例は参考。そのままだらない。	注目の獲得 例  ※この例は参考。そのままだらない。	物や活動の要求 例  ※この例は参考。そのままだらない。
不安のある活動の阻止 例  ※この例は参考。そのままだらない。	○感覚刺激・自己刺激 ○嫌悪状況からの逃避 ○注目の獲得 ○物や活動の要求 ○不安のある活動の阻止	ひっぱる  お友達や職員に対して、腕を力強くひっぱる	落書きをする  壁や机、床など至る場所に鉛筆で落書きをする

【お楽しみカード】

 水	 ビニール袋	 鍵	 毛虫	 電車のフィギュア	 おせんべい	 バランスボール	 リモコン
 物を並べる	 自分の影	 ジャンプ	 物を回す	 服のタグ	 スイッチ	 レシート	 標識

【アイデアカード】イラストの場合と、文章の場合と2パターンあります。

周りの迷惑にならない方法を教える(例: ペン回し、落書き、暗算、深呼吸、ストレッチなど)	好みの感覚刺激を日常的に与える(BGM、音楽の鳴る本、粘土、タオル、無限プチプチ、スピナー、チラシ切り、ハンモック)	嫌悪刺激を減らす(例: 騒音・まぶしさ・匂いなどを避けられる工夫をする)	クールダウン(落ち着ける)できる場所への移動を提案する				
一人で没頭できる活動を提案する(例: 運動、読書、工作など)	見通しを持たせる: スケジュール、タイマーなど	やっている行動に対して理解を示し、我慢と努力を促す(例: 「言いたいのはわかるけど、強り言は他の人の迷惑にならないように小さい声で言ってみよう」)	状況に応じて、ルーティンなどを活用しながら構造化をする				

(3) 成果

- 子どもの立場で支援をされる体験を通して、子供の視点を理解できた。
- 観察力を引き上げる練習になった。
- 考え方が柔軟になり、いつもとは違う新しい支援のひらめきが得られる。



3、シン・PBS

最後はお待ちかね深澤先生のPBSコーナー☆（ビリビリ・ビリビリ・さあ大変）



ドキドキすぎて顔が上げられない先生もいましたね☆

皆さんでビリビリを体験して、子供のドキドキ緊張する気持ちを経験しました☆
「遊びじゃないよ、勉強だよ！サポートルームは人生の勉強をするところだよ」
と深澤先生は言うのです。

☆完☆